



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2019.2

No. 419

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



さいたま市・鴨川 四季の探鳥散歩

大塚 純子（さいたま市）

さいたま市の郊外を流れる鴨川は緑が多く、マイ・フィールドである在家橋から堀の内橋の間では、様々な動植物や昆虫等がみられる。季節毎の景観の移り変わりも楽しみ、地元民（と愛犬）のお散歩コースになっている。私も暫く休んでいた川散歩を、数年前に再開。夕方近くから時折という「ゆる探鳥」だが、約70種の鳥たちに出会えた。片道約2kmのコースと鳥たちを、四季折々の変化共々紹介してみたい。

● **荒川の支流である鴨川**は、潮の干満の影響を受け、この現象は根切橋上流の小堰辺りまで見られる。干潮時は、中洲や浅瀬でカモ類、サギ類、シギ・チドリ類、セキレイ類、時にはクイナも。小鳥達も水飲みや水浴びにと降りてくる。コース中ほどの落差約2mの植田谷堰は、ゴム引布製起伏堰なる可動堰で、灌漑のための水位調節。台風シーズンなどで倒伏中は、上流側で流れが浅く早くなり、サギ類、シギ類、セキレイ類達が飛来する。

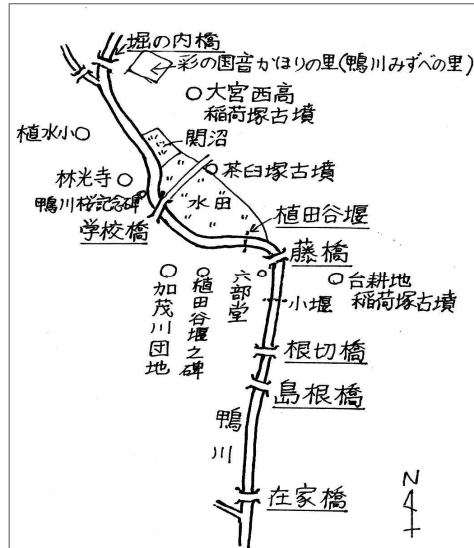
● **初春**、植水小付近の2本の河津桜が満開に。コガモの婚活パーティが盛会となり、シジュウカラやモズのペアも仲睦まじげ。根切橋～藤橋には染井吉野の桜並木。花霞、花天蓋、花吹雪、花筏…と桜尽くして夢見心地に。産卵期のコイ達が水音激しく浅瀬でのたうつ。

花見のころはカモ達もあらかたペアになっている。藤橋の袂には小さな藤棚や民家のお花畑があり、ちょっと楽しい。近所でウグイスが囀り、ツバメもひらり。土手は、菜の花で黄色く染まり、桑や柳の若葉が光る。

田植え時には、水田でムナグロ、コチドリ少数。10年ほど前にムナグロ100羽が入ったことも。

晩春、関沼畔では、野茨（ノイバラ）、忍冬（スイカズラ）が芳しく咲き乱れ、アオジの美しい囀りも。「みずべの里」の南口では、唐種招霊（カラタネオガタマ）の花が甘く香る。

● **初夏**、河畔に多い桑の熟果にムクドリ大集合。堀の内橋付近のヨシ原でオオヨシキリ。植田谷堰の上流では、川や稻田の上でツバメが風を切り、虫を狩る。カイツブリが巣作り・抱卵。カルガモ親子は一人っ子だったり大家族だったり。子ガモ達は、電光石火のジグザグ泳ぎでアメンボや小さな生き物を追いかけて、



親子で潜りっこも。

盛夏、根切橋から上流の緑滴る谷間を覗けば、ハグロトンボにきらりとカワセミ。時にはササゴイも出て来て一服の清涼剤に。繁茂する雑草たちの観察もまた面白い。

晩夏、上空ではタカの仲間がツバメたちに絡まれて逃げ去るシーンも。かつては在家橋～島根橋に、星五位（ゴイザギの幼鳥）5～6羽が寄宿する柳の低木があった。

● **初秋**、河畔の柳や胡桃の木に賑やかコムクドリ御一行が採餌に訪れ、ムクドリと合流も。方々でモズ高鳴き。樹々にヒヨドリが群れて鳴き頻り、「どこもかしこもモズ、ヒヨドリだらけ！」の感さえも。

刈り田や河岸に群雀（むらすずめ）。サギ類が増え、場所取り争いも。川中にカルガモが集まり、早くも婚活スタートの様子。外来植物がはびこる傍らに、関東嫁菜（カントウヨメナ）や犬蓼（イヌタデ）の可憐な花々。土手は芒（ススキ）の白穂や背高泡立草（セйкаアワダチソウ）の黄がまばゆい。あちらこちらにジョウ



鴨川：植田谷堰上流右岸から下流方向

ビタキ出没。「みずべの里」の広場ではエゾビタキの虫捕りを見物できる。

秋も深まると、植田谷堰より上流には、ヒドリガモ、オナガガモ、ヨシガモ、オカヨシガモらが旅の途中に立ち寄る。マガモやコガモは留まり、徐々に増加。

● **冬**の堤防は鳥達の大食堂。草地ではキジバト、ツグミらが採餌。ヨシ原ではシジュウカラ、コゲラ、ムクドリが虫探し。冬枯れの背高泡立草はベニマシコのお気に入り。ホオジロ類が好む藪も堤に多い。藤橋袂の桑には、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ類、スズメ、カワラヒワ多数。ジョウビタキもしばしば、持ち場にピョコリと現れる。植田谷堰下の中州付近はコガモの食事処兼休み処。サギ類やハクセキレイも。堤上流は水が満々。ヨシの辺りをカモ類、バン、オオバンが出入り。オオバンは近年増加傾向。

真冬は、沿道で水仙が香り、ヨシを背にサギ類が日向ぼっこ。セグロセキレイが上空をパトロール。時にはオオタカも出現！ 関沼は元灌漑用のため池、今は草原で木道あり。マガモやバン、オオバンが採餌に訪れ、湖畔の藪にはアカハラやガビチョウ。「みずべの里」の雑木林ではモズ、シメ、メジロ、ツグミ、シロハラなど。梅檀（センダン）の木にヒヨドリが群れ、実を食す。

● **散歩のあとで**

定期的な除草などは行われているが、小堰のゴミ堆積などは景観を損ねる。気掛かりなのは水質のこと。小堰から上流では、時に黒濁。脇の水路から真っ黒な液が鴨川に流れ込む箇所があり、それは4年前と全く変わらない。魚が棲めれば問題ないのかもしれないが、どす黒く濁った水を見ていると、川が健康であるとは思えない。心が痛むのである。

No.	鳥種 2014年7月～ 2018年9月	春	夏	秋	冬
		3月～ 5月	6月～ 8月	9月～ 11月	12月～ 2月
1	カイツブリ	○	○	○	○
2	カンムリカイツブリ			○	
3	カワウ	○	○	○	○
4	ゴイサギ	○	○	○	○
5	ササゴイ		○		
6	ダイサギ	○	○	○	○
7	チュウサギ		○	○	○
8	コサギ	○	○	○	○
9	アオサギ	○	○	○	○
10	オシドリ			○	
11	マガモ	○		○	○
12	カルガモ	○	○	○	○
13	コガモ	○		○	○
14	トモエガモ	○			○
15	オカヨシガモ			○	
16	ヨシガモ			○	
17	ヒドリガモ	○		○	○
18	オナガガモ			○	
19	ハシビロガモ	○		○	○
20	ホシハジロ			○	
21	キンクロハジロ			○	
22	ミコアイサ				○
23	トビ	○			
24	オオタカ		○	○	○
25	ハイタカ		○		○
26	ノスリ			○	
27	ハヤブサ			○	
28	チョウゲンボウ		○	○	○
29	キジ			○	
30	クイナ				○
31	バン	○	○	○	○
32	オオバン	○		○	○
33	コチドリ	○			
34	イカルチドリ				○
35	ムナグロ	○			
36	イソシギ	○	○	○	○
37	タシギ				○
38	セグロカモメ	○			○
39	コリカモメ				○
40	コアジサシ		○		
41	キジバト	○	○	○	○
42	カワセミ	○	○	○	○
43	コゲラ	○	○	○	○
44	ツバメ	○	○	○	
45	イフツバメ	○	○		
46	キセキレイ			○	○
47	ハクセキレイ	○	○	○	○
48	セグロセキレイ			○	○
49	ヒヨドリ	○	○	○	○
50	モズ	○		○	○
51	ジョウビタキ	○		○	○
52	アカハラ	○			○
53	シロハラ	○			○
54	ツグミ	○		○	○
55	ウグイス	○		○	○
56	オオヨシキリ	○	○		
57	エゾビタキ			○	
58	シジュウカラ	○	○	○	○
59	メジロ			○	○
60	ホオジロ	○	○	○	○
61	カシラダカ	○		○	○
62	アオジ	○		○	○
63	オオジュリン	○			
64	カワラヒワ	○	○	○	○
65	ベニマシコ				○
66	シメ	○			○
67	スズメ	○	○	○	○
68	コムクドリ	○		○	
69	ムクドリ	○	○	○	○
70	オナガ	○	○	○	○
71	ハシボソガラス	○	○	○	○
72	ハシブトガラス	○	○	○	○
73	ドバト	○	○	○	○
74	ガビチョウ				○

※カモ類の夏季居残り例は含まず。
※コアジサシの記録は2014年以前。

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

● サバクヒタキ

英名 Desert Wheatear

学名 *Oenanthe deserti*

分類 スズメ目ヒタキ科サバクヒタキ属



日本野鳥の会神奈川支部会員の柳澤隆さんから、2018年10月18日に鴻巣市内の荒川河川敷コスモス畑で撮影した左写真が寄せられました。当委員会で写真を検討したところ、サバクヒタキと確認したので発表します。幼羽から第1回冬羽に換羽中の個体と思われます。

本種の当県内での記録としては、1980年11月の戸田市（本誌1985年2月第9号）、2011年2月の深谷市（同2011年4月第324号）に続く3例目となります。

本種は、アフリカ北部・中東からチベット高原・モンゴルにかけて繁殖分布し、我が国では稀な冬鳥または旅鳥として記録されます。

不思議な光景

蟹瀬武男（さいたま市）



水浴びをしているオオタカ幼鳥。これ自体は不思議ではない。この手前に10数羽のカルガモとマガモがいて、オオタカを注視しているが、逃げようとなしないのだ。オオタカがこんな近くに現れれば、カモたちはもろパニックで飛び去るものと思うが、それが？

2018年11月8日さいたま市内、林の中の小さな池。私は藪陰に椅子を据え、カルガモたちが逆立ちして水底からクヌギの実などを採って食べるのを、時々双眼鏡で見たりしていた。

ふと変化を感じた。カモたちが動きをとめて、一斉にある方向を見ている。特に慌てたり、飛び立とうとしたりする様子はない。鳴きもしない。その視線の先で、オオタカ幼鳥

が水浴びをしていた。そっと撮影したが、すぐに飛び去り、カモたちは採餌を再開した。何ともなかったかの様に。

何これ？ 大きく見ても1辺20mほど、ほぼ四角形の小さな池だから、カモたちとオオタカの距離は数mから10数mほどしかなかったはず。今年生まれの幼鳥なんて恐れる必要がないと馬鹿にしているのか？ あるいは何らかの理由で襲われないことをカモたちは察していたのか？ 分からない。写真を見直すと、オオタカの鋭いはずの目に、戸惑いのようなものが浮かんでいるように見えるのは、気のせいかな。

ミヤマガラスの動向が気になる II

山部直喜（三郷市）

12月8日、越谷の市民団体を中心に、越谷市越ヶ谷の久伊豆神社の「ガラスの集団罫の個体数調査」を行った。結果の公表は後日だが、ミヤマガラスのさらなる増加を感じた。

他の地域の罫にもミヤマが入ってきているはずである。確認をお勧めする。観察タイムは日の入り前15分間と後15分間。屋根すれすれの低空飛行で、集団で罫に飛び込んでいく。キャンキャン鳴く声はコクマルだ。2月末頃まで楽しめる。結果は「野鳥情報」へ。



野鳥情報

さいたま市西区指扇 ◇9月15日、田んぼでダイサギ8羽、チュウサギ5羽、コサギ10羽、アマサギ2羽、アオサギ2羽、ゴイサギ3羽、ササゴイ2羽、ツバメ3羽（村越百合子）。

上尾市地頭方～領々家 ◇9月17日、トビ2羽、カルガモ5羽、コチドリ2羽、オオヨシキリ、ヒバリ2羽、シジュウカラ8羽、コゲラ3羽、モズ5羽、スズメ8羽、ムクドリ16羽、オナガ21羽、ハシボソガラス、ハシブトガラス。10月16日、キジ6羽、カルガモ4羽、メジロ8羽、モズ7羽、シメ1羽、ヒバリ1羽、シジュウカラ7羽、スズメ38羽、ハクセキレイ5羽、ムクドリ16羽、キジバト6羽、オナガ14羽、ハシブトガラス、ハシボソガラス。上空にカワウ5羽（村越百合子）。

上尾市荻丁目 ◇10月5日、ツミ2羽をハクセキレイ12羽が興奮した状態で追いかけていた（村越百合子）。

上尾市上野 ◇10月9日、オオタカの幼鳥と思われる個体がハシブトガラス3羽に追いかつけられ、「キキッキー」と鳴いていた（村越百合子）。

さいたま市西区通称大久保農耕地A区 ◇10月17日、ノビタキ3羽（海老原教子）。

吉川市きよみ野4丁目(53396678) ◇10月19日午前9時30分頃、散歩中に永田公園北側駐車場隣でコゲラ2羽がトントンと枯れ木をつついていて。同時に3羽のシジュウカラも観察した。10月22日午前9時30分頃、同じ場所でコゲラ1羽が枯れ木をつついていて（高野 智）。

さいたま市見沼区藤子 ◇10月19日午後4時頃、高圧送電線にとまるミヤマガラス20羽+の群れ。今季初認（鈴木紀雄）。

上尾市平方 ◇10月20日、アオサギ、エナガ16羽、メジロ8羽、シジュウカラ8羽、セグロセキレイ10羽、スズメ7羽、ジョウビタキ♂3羽♀1羽、ツミ1羽、アオジ、ヒメアマツバメ（村越百合子）。

上尾市地頭方 ◇10月23日、電線を見ると心む光景があった。上段にヒヨドリ。中段にモズ、スズメ。下段にアオサギ、ハクセキレイがとまっていた。季節外れのベニマンサクの花の穂先にジョウビタキ♂がとまって鳴いていた（村越百合子）。

久喜市菖蒲町小林 ◇10月25日午前6時30分、ニューナイスズメ50羽±、農道の電線にとまる。昨シーズンより2週間ほど早く飛来した（小貫正徳）。

越生町大高取山 ◇10月28日、ノスリ5羽、オオタカ幼鳥1羽、ツミ1羽（村越百合子）。

北本市北本自然観察公園 ◇10月29日午前9時30分～10時30分、高尾の池周辺でオオタカ、ノスリ、コガモ、カルガモ、マガモ、オカヨシガモ、バン、カイツブリ、アオサギ、ヤマガラ、シジュウカラ、ジョウビタキ、アオジ、モズ、スズメ、ヒヨドリ、キジバト、ハシボソガラス、ハシブトガラスなど（嶋田富夫）。

越谷市大吉 ◇10月23日、古利根川右岸の寿橋上流200m地点でダイゼン（幼羽）1羽を確認（下写真）。この地でダイゼンを見るのは10数年ぶり。とにかく珍しい。飛翔からもダイゼンと確認。ダイゼンは翌日まではいたが その後は見当たらず。他にイカルチドリ30羽+、イソシギ5羽、ヒドリガモ、コガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ。土手でモズ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラスなど。ダイゼン以外は寿橋から上流700m間の右岸で見た（植平 徹）。



白岡市西2丁目 N36.0138 E139.6495 ◇10月29日、元荒川の中州でセグロセキレイ1

羽、コサギ1羽、ダイサギ1羽、コガモ20羽土、カルガモ17羽、イカルチドリ5羽(長嶋宏之)。

坂戸市西坂戸調整池 ◇10月30日、午前11時50分頃、ヨシ原の開水面に佇むコサギ5羽、ダイサギ1羽、コガモ♀数羽。電線にとまるジョウビタキ♀1羽。今季自己初認。いよいよ冬鳥の季節到来！(増尾 隆)。

白岡市新白岡 高岩公園 ◇10月30日、カルガモ7羽、コガモ(エクリプス)1羽、アオサギ2羽、コサギ1羽、ハシブトガラス1羽、ヒヨドリ5羽、ハクセキレイ1羽、カワラヒワ(声)(長嶋宏之)。

白岡市新白岡 古代ハス群生地 N36.0336 E139.6694 ◇10月30日、コガモ(エクリプス)8羽、アオサギ1羽、コサギ1羽、ハクセキレイ1羽(長嶋宏之)。

加須市多門寺浮野の里 ◇10月30日、キジ♂1羽、アオサギ1羽、モズ1羽、カケス3羽、ハシボソガラス4羽、シジュウカラ5羽とコゲラ2羽の混群、ヒヨドリ20羽土の群れ、スズメ3羽、カワラヒワ2羽(長嶋宏之)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇11月2日、ジョウビタキ♂1羽、♀1羽。ウグイス地鳴き1羽。11月6日、銀杏の木の天辺にシメ6羽、渡ってきたのだらう。11月10日、シメ3羽。11月13日、ツグミ2羽、今季ここでの初認。11月16日、ツグミ1羽、カケス2羽。11月18日、ジョウビタキ♂1羽、♀1羽。11月19日、ツグミ1羽、シジュウカラ5羽と6羽の群れ。東沼にアオサギ2羽。11月20日、モズ1羽、ヒヨドリ33羽、ツグミ2羽、カケス1羽。11月30日、カケス1羽、ウグイス地鳴き(長嶋宏之)。

飯能市名栗湖(53396143) ◇11月4日、オシドリ約50羽。他にマガモ、カルガモ、コガモ、アオサギ、キジバト、ヤマガラ、シジュウカラ、ジョウビタキ、ハシブトガラス、ガビチョウなど(嶋田富夫)。

渡良瀬遊水地(谷中湖) ◇11月10日午後2時過ぎ、オオミズナギドリ。栃木県支部の探鳥会終了後に柳生駅まで戻る途中に発見。カムリカイツブリとは違う浮き姿の白っ

ぽい鳥が居たので、スコープと図鑑と記憶を頼りに識別。時折、他の水鳥を嫌ってか3mぐらい飛んでは着水していた。台風ならぬ「低気圧の落し物」かな(大畑祐二)。

さいたま市見沼区見沼自然公園 ◇11月11日、トモエガモの♂エクリプスが1羽入った。昨年飛来した個体と同じかもしれない。これからの変化が楽しみだ(長嶋宏之)。

蓮田市閨戸 ◇11月15日早朝、自宅の庭でうずくまっているトラツグミを保護。庭木の枝にはタカらしい鳥がいた。タカはその場から離れず、近くの電線や沙羅の木を行ったり来たりしていた。写真を撮ってみるとツミだった。トラツグミを近くの柿沼動物病院に連れて行くと、傷や外傷もなく、骨にも異常がなかった。先生の診断は、「多分脳震盪か、タカに襲われたショックで動けなかったのではないか」ということ。帰途、トラツグミをたまに見かける閨戸の久伊豆神社で放鳥(下写真)。元気に飛んでいった(関口明宏)。



さいたま市見沼区膝子(53397505) ◇11月15日午前10時15分、田んぼ上空でノスリ1羽をカラス4羽が追い回す。11月17日午前11時15分～11時45分、ハシボソガラスとミヤマガラス合わせて100羽+の群れ。その内、ミヤマガラスが半分くらいいた。木にとまったり、田んぼに降りたりしながら飛び回る。タヒバリ3～4羽が飛ぶ(藤原寛治)。

表紙の写真

チョウゲンボウとノスリ

昨年2月7日。狩り場(?)に入ってきたノスリにチョウゲンボウが急降下。ノスリはサッと身を翻しました。 榮 武男(春日部市)



行事案内



ミコアイサ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：**2月2日(土)**

集合：午前 9 時 30 分、西武狭山湖線 西武球場前駅前。

担当：石光、小林(ま)、佐藤(久)、島崎、鈴木(秀)、長谷部、水谷、村上(将)、持丸

見どころ：狭山湖のトップ・シーズン。カイツブリ類やカモ類の水鳥、ルリビタキやシロハラ等の林の鳥に期待し湖畔を歩きます。

川口駅北口行き」8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：大井、伊藤、須崎、高崎、手塚、野口、藤田、若林

見どころ：昨年は 49 種類、オオハクチョウ 3 羽を観察。淡い赤色のベニマシコ、赤橙色をしたジョウビタキ、上空には猛禽が。

ご注意：①コースの途中にトイレはありません。②強風等天候によってはコースを変更。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：**2月2日(土)**

集合：午前 8 時 35 分、東武東上線 武蔵嵐山駅西口。または午前 9 時 15 分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博物館利用者専用です。探鳥会参加者の駐車は「蝶の里公園駐車場」をお願いします。交通：東武東上線 川越 7:58 発、または寄居 8:02 発に乗車。

担当：千島、新井、今村、鶴飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：雑木林でシロハラ、イカル、シメ、アオジ、河原でイカルチドリ、セキレイ 4 種、ノスリも飛ぶでしょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：**2月3日(日)**

集合：午前 9 時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、廣田、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、近藤、柴田、千葉、飛田、永野、村上(政)、吉原(早)

見どころ：冬鳥たちも人慣れしてきたころ。

間近にアオジやカシラダカ。猛禽は空高く。お知らせ：「ビギナー探鳥会」を同時開催。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：**2月3日(日)**

集合：午前 9 時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、「東

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：**2月3日(日)**

集合：午前 9 時 20 分、森林公園南入口前。

交通：東武東上線 森林公園駅北口から「熊谷駅南口行き」バス 9:00 発で「滑川中学校」下車、歩道橋を渡り少し戻る。

費用：参加費と入園料大人 450 円、中学生以下無料、65 歳以上 210 円(要年齢確認)。

担当：鈴木(秀)、大畑、岡安、佐久間、内藤、

中村(豊)、藤掛、藤澤、松下
見どころ：南口から山田大沼辺りのコース。
地上の小鳥、梢の間のアオゲラ、沼を泳ぐ
カモ類など。解散後昼食、帰り道にも期待。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月9日(土)
集合：午前9時、JR宇都宮線 土呂駅東口。ま
たは午前9時20分、市民の森入口前(土呂
駅東口から徒歩約5分)。
担当：青木、浅見(徹)、柏瀬、小林(み)、近藤、
田中、藤原、山田
見どころ：見沼たんぼの中で一番北側の探鳥
会です。ビギナーとベテランでコースを分
けますのでお試し入会の方も是非お越し
ください。(太字は「はじめてみようパー
ドウォッチング」で一緒だった仲間です。)

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月10日(日)
集合：午前9時40分、秩父鉄道 大麻生駅前。
交通：秩父鉄道 熊谷9:21発、または寄居8:59
発に乗車。
担当：茂木、新井、鶴飼、大畑、倉崎、田島、
千島、飛田、中川、村上(政)
見どころ：冬本番の中で一番活躍するのはツ
グミ、シメ、ベニマシコ…かな。上空では
猛禽類も勢ぞろいするかもしれません。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月11日(月・祝)
集合：午前9時15分、智光山公園管理事務所前。
※バスのダイヤ改定に合わせ、集合時間を15分
繰り上げます。
交通：西武新宿線 狭山市駅西口から、「智光
山公園行き」8:38発西武バスで終点下車。
担当：石光、小林(ま)、佐藤(久)、鈴木(秀)、
藤掛、星、水谷、山本
見どころ：年一回の開催ながら、珍客の出現
記録が多い智光山。平成最後の今回は、ど
んな記録が？ 乞うご期待！

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：2月14日(木) 平日

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線 花崎駅
南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または
午前9時、加須はなさき公園管理事務所前。
交通：東武伊勢崎線 春日部8:16→久喜8:29
→花崎8:36。または JR 宇都宮線 大宮7:53
→久喜8:15で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所
担当：長嶋、相原(修)、相原(友)、石川、植
平、竹山、星野、茂木、渡邊
見どころ：青毛堀川堤でホオジロやカシラダ
カ、コガモの翼鏡を観察。園内でシメやジ
ョウビタキ、ツグミ等の冬鳥を探します。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月16日(土)
集合：午前7時40分、丸山公園南口入口辺。
交通：JR 高崎線 上尾駅西口③番バス乗り場
から 尾32「西上尾第二団地経由リハビリ
センター行き」7:22発で「丸山公園入口」
下車、徒歩約4分。
担当：近藤、秋葉、浅見(徹)、大坂、柴田、
千葉、永野、吉原(早)
見どころ：去年は、ベニマシコ、ジョウビタ
キ、シロハラなど、32種を確認。早起きし
て、鳥たちの春への準備を観察しましょう。
帰りのバス：下車したバス停から12:49発。

埼玉 Young 探鳥会 さいたま市・芝川第一調節池

期日：2月16日(土)
集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園
駐車場、念仏橋バス停前。
交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、「東
川口駅北口行き」8:37発で「念仏橋」下車。
担当：高崎、石塚(敬)、市原、大林、河邊、
島崎、廣田、村上(将)
見どころ：若者やお子様連れ等を対象とした
探鳥会です。オオハクチョウやコハクチョ
ウに会えるかな？ ノスリやチュウヒな
どの猛禽類やカモ類など見所満載です。土
手を歩きますので防寒対策は忘れずに。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月16日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月17日(日)

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から渡り、50m先左手バスターミナルから東武バス「さいたま市立病院行き」8:23 発で終点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、新部、畠山

見どころ：鳥たちは繁殖に向けての準備を開始。畑ではツグミ・ホオジロ・モズ・ヒバリ等が盛んに餌探し。カモ達は鮮やかな羽色に？ 芝川沿いを中心に歩きます。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月17日(日)

集合：午前9時、東武東上線 柳瀬川駅西口、スーパーサミット前の円形広場。

担当：鈴木(秀)、神場、佐久間、志村、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、持丸、山口

見どころ：河岸を村山快哉堂まで。サギ類やカモ類、イカルチドリやイソシギ、キセキレイ、モズ等を探します。昼食せずに散会。

お知らせ：柳瀬川での「ビギナー探鳥会」は、2/3(日)開催です。詳細は当会 HP で。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月21日(木) 平日

集合：午前9時20分、森林公園南入口前広場。
交通：東武東上線森林公園駅北口から「熊谷駅南口行き」バス9:00 発で「滑川中学校」下車、歩道橋を渡り少し戻る。一つ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。
費用：参加費と入園料大人450円、中学生以下無料、65歳以上210円(要年齢確認)。

担当：中村(豊)、大坂、大畑、岡安、鈴木(秀)、内藤、藤掛、藤澤、松下

見どころ：平日の静かな森林公園で野鳥との出会いを楽しみます。カラ類の混群、ルリビタキ、ビンズイ。そしてキクイタダキも。解散後、再び南口までの鳥見も期待です(その場合は昼食をお忘れなく)。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月23日(土)

集合：午前9時10分、岩槻文化公園の国道16号側駐車場。

交通：東武アーバンパーク線岩槻駅東口から朝日バス「しらこぼと水上公園行き」8:43 発で「村国入口」下車。バス停からご案内。

担当：長野、石井(健)、石川、市原、内田、鈴木(誠)、鈴木(紀)、鈴木(庸)、長嶋、藤原
見どころ：冬鳥が北国への帰り支度を始める時期です。トイレ完備の公園内や平坦な元荒川沿いの道をゆっくり歩いて林の鳥、水辺の鳥、ヨシ原の鳥たちを観察します。

ご注意：岩槻駅での案内人の出迎えはありません。「村国入口」バス停でお迎えます。

お知らせ：親子探鳥会を同時開催します。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月24日(日)

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR 高崎線 本庄駅北口から国際十王バス「伊勢崎行き」9:06 発で「坂東大橋南詰」下車。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島、千島
見どころ：到着が遅れていたカモたちも勢揃い。昨年の出現鳥43種を超えたら嬉しい。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きます。足拵えはしっかりと。

埼玉 Young 探鳥会

八丈島航路海鳥観察会(要予約)

期日：3月22日(金)～23日(土)

集合：22日午後9時半、竹芝客船ターミナル内「SHOP 竹芝」付近。JR 浜松町駅から徒歩15分。ゆりかもめ竹芝駅から徒歩1分。

解散：23日午後8時頃、竹芝客船ターミナル。

担当：廣田、大林、河邊、小林(み)

申込：当会 HP の専用応募フォームより(1月下旬掲載)。

定員：15名(概ね40歳くらいまでの方を対象。申込者多数の場合は抽選)。

見どころ：アホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリ、そして10万羽のオオミズナギドリの群れは圧巻。

その他：船のチケットは各自購入。詳細については当会 HP で1月下旬からご案内。



行事報告

11月3日(土) 上尾市 丸山公園

参加：42名 天気：晴

コジュケイ キジ マガモ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ トビ ツミ ノスリ コゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (32種) (番外：ドバト) 観察はマガモから。声がしていたジョウビタキを滝の所で全員が観察。オレンジ色の鮮やかなみ、そのあとも二度三度出る。遠くの梢にシメの姿、飛び出せば5羽の群れで頭上を廻る。小川沿いの藪では、ホオジロに加えてアオジとカシラダカ。土手の上では、猛禽も出て、「今季初の鳥に逢えたね。」の声でお開き。 (近藤龍哉)

11月4日(日) 春日部市 内牧公園

参加：56名 天気：曇

キジバト アオサギ ダイサギ タシギ タマシギ コゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ アオジ (27種) (番外：ドバト) カラ類の混群やジョウビタキ♂を見ている最中、タマシギの一報が入り、コース変更して現場へ。稲のひこばえに潜むタマシギ♂を確認。当地探鳥会では初記録となった。他方、シメ、タヒバリはわずか。ツグミは一部の人が認めたくらいで本格的な冬鳥の季節は未だし。 (石川敏男)

11月7日(水) 羽生市 羽生水郷公園

参加：46名 天気：曇

キジ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ バン オオ

パン トビ ハイタカ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ ハヤブサ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ オオジュリン (42種) (番外：ドバト) 開始早々上空をツグミが飛ぶ。ヨシ原ではオオジュリンが飛び回り、電柱に止まるノスリのペアと飛ぶオオタカを観る。水辺ではクイナ、パン、オオパンの姿も。ベニマシコを観察していると上空でハイタカ、トビ、ハヤブサが舞い、シメも止まる。最後に恒例のヨシガモを観察。 (相原修一)

11月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加：56名 天気：晴

コジュケイ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ミサゴ トビ ハイタカ ノスリ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (29種) (番外：ガビチョウ) 目当てにしていたジョウビタキは、土手に上がった直後にメスを3羽見ることができた。猛禽類も途中でハイタカ、チョウゲンボウ、ノスリ、トビ、またミサゴも河原で全員観ることができた。水鳥もアオサギ、ダイサギと、やはり河原にて見つけた。 (茂木幸蔵)

11月17日(土) さいたま市 見沼自然公園

参加：51名 天気：快晴

コジュケイ キジ オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ オナガガモ トモエガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ チュウサギ クイナ バン オオパン オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (40種) (番外：ドバト) 目当ては、今年も来たトモエガモ♂1。まず池でこの子を観察。1週間前の下見では色味のなかった顔に緑と黄色の巴模様が現れ始めていた。加田

屋川で綺麗なキセキレイ、大宮聖苑横では目の前にジョウビタキとアオジ。猛禽の出現で盛り上がり、最後に池でカモ6種を確認。(浅見 徹)

11月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11名

宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫、三ッ矢正安、吉原早苗、吉原俊雄

11月18日(日) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 50名 天気: 曇

コジュケイ キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン イカルチドリ クサシギ トビ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ イカル ホオジロ アオジ (38種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 雑木林の開けたところに出るとあちこちにシメ。梢のイカル4羽をじっくり見ることができた。ツグミ1羽が鳴きながら上空を飛んだ。アオジ、ジョウビタキの声が聞こえ、都幾川に出ると、キセキレイがいて、近くにクサシギ1羽がじっとしていて特徴を観察できた。ハクセキレイ、セグロセキレイがいて、中州にイカルチドリ3羽がいた。ダイサギ、アオサギが飛び、カワセミの声が聞こえた。上流にカイツブリ、オオバン、バンが見えた。カワラヒワの群れが木にとまり、畑の上をヒバリが地鳴きしながら飛んだ。ベニマシコの声は一声だけだったので2人しか聞くことができなかった。(千島康幸)

11月18日(日) さいたま市 三室地区

参加: 41名 天気: 曇後晴

キジ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ クイナバン オオバン カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホ

オジロ (35種) (番外: ドバト) 北宿大橋から芝川右岸を下ってカモ見物。新宿橋を北に渡って畑の中を行くと、まだ満開のコスモス畑に数十羽のカワラヒワ。飛び立つと翼の黄色とコスモスのピンクが美しい。「タヒバリ！」の声に辺りを探すと、畑の土と同化したタヒバリの群れ。上新宿橋では、クイナとゴイサギ (星五位) を観察。(浅見 徹)

11月23日(金、祝) 本庄市 坂東大橋

参加: 11名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ キンクロハジロ カワアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ (26種) (番外: ドバト) 「カモがいない」との前宣伝が効きすぎたか、参加者はまさかの11名。土手を進むと、現れたノスリにオオタカがモビング。そのまま近くの樹に止まってじっくり見せてくれた。水辺ではカンムリカイツブリが6羽ゆったりと泳ぎ、最後に思いがけずカワアイサ5羽も見られた。好天に恵まれ、出現数以上の満足感で終了した。(新井 巖)

11月23日(金、祝) 志木市 柳瀬川

参加: 34名 天気: 快晴

オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン イカルチドリ イソシギ トビ ハイタカ オオタカ カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ムクドリ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ (33種) (番外: ドバト) 開始間もなく向こう岸の木に多くのコサギ・ダイサギが果実の如く止まっている。水谷田圃を見渡せる場所では猛禽3種が姿を現す。富士山を遠望した後、ゴルフ場裏手の中洲にはイカルチドリの群れ(30羽超)が羽を休めている。村山快哉堂付近は護岸工事が行われており、カモ類は新河岸川合流点上流に移動していた。冬鳥・水鳥ともに数は少なかったもののコサギやイカルチドリの群れ、猛禽との出会いもあり楽しめた。(鈴木秀治)



●茨城県の野鳥たちのための署名運動

茨城県ではレンコンの食害防止を目的とした防鳥網によって死亡する野鳥が、収穫期の3ヵ月間だけで毎年1,000羽から1,500羽にのぼるとのこと。

日本野鳥の会茨城県は「野鳥と共存するハス田となることを強く要望します」との署名簿を、県議会議長あての請願書に添えて本年3月の定例県議会に提出する予定で、他支部にも協力を求めています。

当会は12月16日(日)の役員会で話し合い、会として協力することを決議しました。皆様のご協力をお願いします。

1～2月の探鳥会で、できるだけ署名の呼びかけをします。その機会にご署名いただくか、日本野鳥の会茨城県のホームページから趣意書や署名用紙をダウンロード、署名用紙に署名して、記載されている同会住所宛てに郵便でお送りください。

私たちが野鳥たちのために直接声をあげることができる、ひとつの機会です。

●会員の普及活動

12月14日(金)、上尾市丸山公園で開催された自然学習館学習指導員研修で小林みどりが指導。野外研修(公園内で探鳥)と室内研修(公園内で見られた鳥についての解説・鳥の羽の役割やメンテナンスについての解説)。受講した指導員3名。

●当会の探鳥会記録を掲載

三宅島自然ふれあいセンター研究報告『Miyakensis Vol. 21』(2018年11月三宅村観光産業課発行)に、「三宅島探鳥会で

の観察記録2」として、当会探鳥会で観察された136種を噴火前(1998～2000)と噴火後(2007～2017)に分けて浅見徹がまとめた表などが、当会の名前で掲載されました。

●会員数は

1月7日現在1,587人です。

活動と予定

●12月の活動

12月8日(土)1月号校正作業(海老原教子、海老原美夫、志村佐治、藤掛保司)。

12月16日(日)役員会(司会:小林みどり、茨城県署名運動への協力など)。

12月17日(月)『野鳥』誌と同封発送しない会員向け『しらこぼと』1月号を郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。

●2月の予定

2月2日(土)編集部会。普及部会。

2月9日(土)3月号校正(午後4時から)。

2月16日(土)袋づめの会(午後3時から)。

2月17日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

初日の出は自宅マンションの屋上から望む。口を大きく開けて初日の光を飲み込む。いい気持である。次に富士山の姿に安心して、武甲山、両神山、浅間山、赤城山、男体山、そして筑波山に挨拶。午前中は終わっていない『しらこぼと』の編集作業。以上、1月1日の年中行事でした。(山部)

正月はいつも久伊豆神社へ初詣。午後は岩槻公園。今年の初鳥はルリビタキと思ったら先に出たのはカケス。帰る頃にやっと青い鳥出現。辛抱も大切ですね。(藤原)

しらこぼと 2019年2月号(第419号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 URL http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社